

平成28年度事業報告

公益財団法人 長崎県老人クラブ連合会

平成28年度事業報告書

我が国は世界に類を見ない速さで高齢化が進んでおり、本県においても県民の4人に1人が65歳以上の高齢者であり、少子化とあいまって、その比率はますます高くなってきている。

しかしながら、老人クラブ活動の基盤となる会員数は年々減少しており、全老連においては平成26年度から5カ年計画で「老人クラブ『100万人会員増強運動』」に取り組むことになった。

県老連においても、平成30年度までの目標を「2万人会員増」とした会員増強運動に取り組み、県下各市町老連の会員増強運動計画を支援するため会長研修会をはじめとした各研修会や女性部会・若手委員会等において、会員等推移の現状分析や意見交換を実施した。会員数は、この数年4,000人台の減少数で推移していたが、運動初年度は2,000人台に半減、2年度は2,500人の減少となり、目標達成はできなかったが、会員数の減少幅は小さくなり、運動による一定の成果は表れた。

また、地域においては、人間関係の希薄化に起因すると思われる事件や高齢者を狙った悪質商法や振り込め詐欺などの被害が発生している。

このような状況の中で、老人クラブは地域における高齢者ネットワークという特性を生かし「健康」「友愛」「奉仕」の全国三大運動を通じて、地域社会の中心的役割を担うべく種々の活動を展開した。

平成28年度（公財）長崎県老人クラブ連合会は、「老人クラブ21世紀プラン」及び「単位クラブ21」の指針・提案を基軸として、次の諸事業を実施した。

1 法人の運営

(1) 役員会等の開催

法人を適正に運営するため、①理事会 ②評議員会 ③監事会（監査）を開催した。

(2) 表彰

老人クラブの育成・発展に功績のあった団体や個人に対して、長崎県老人クラブ大会において県老連会長表彰を行うとともに全国老人クラブ連合会会長表彰への内申を行った。

また「プラスワン作戦表彰」では、3市町老連が受賞し、このうち佐々町老連においては4年連続の受賞となった。

(3) 法人事務の遂行

厳しい財政状況の中、経費節減に努め、関係規程に則り適正で円滑な事務の遂行に務めた。

2 全国三大運動（健康・友愛・奉仕）の推進

(1) 健康活動の推進

健康づくり・介護予防活動は老人クラブ活動の重要課題であり「健康づくりリーダー養成講習会（4市老連）」などの事業を実施するとともに、リーダー育成のために「健康づくり中央セミナー（全老連）」に若手会員2名を派遣した。

また、介護保険制度の見直しによる新地域支援事業について各研修会等において周知した。

(2) 友愛活動の推進

地域支え合い活動としての友愛訪問活動の普及促進に努め、そのために「高齢者相互支援事業研修会」を4モデル市町老連で開催した。

また「在宅福祉を支える友愛活動セミナー（全老連）」に新地域支援事業に取り組んでいる市老連から会員2名を派遣した。

(3) 奉仕活動の推進

安全・安心な住みよいまちづくりのために、地域見守り活動や花の植栽、清掃活動などの奉仕・ボランティア活動を推進した。

特に、「全国一斉『社会奉仕の日』（9月20日）」を中心に全クラブ参加で美化活動に取り組んだ。

3 第51回県老人クラブ大会の開催及び全国老人クラブ大会への参加

県下の老人クラブ活動のさらなる展開と老人福祉の一層の向上等を目的として、12月8日、「第51回長崎県老人クラブ大会」を諫早市において会員や関係団体約1,200名の参加を得て開催するとともに、11月9～10日、富山市において開催された「第45回全国老人クラブ大会」に9名が参加し、全国の会員との交流を深めた。

4 老人クラブリーダーの育成

市町老連トップリーダーの資質向上を図るために「市町老連会長研修会」の開催や市町老連実施のリーダー研修会への助成や講師派遣などを行うとともに、「老人クラブリーダー中央セミナー（全老連）」へ2名を派遣した。

5 若手組織の確立と若手リーダーの育成

次代を担う若手リーダーの育成を図るため、「県老連若手委員会」及び「市町老連若手リーダー研修会」を開催し各市町老連に若手組織の設置を呼びかけるとともに、市町老連研修会に県老連若手委員会役員を講師に派遣するなど若手会員の組織活動等を支援した。

6 女性リーダーの育成と男女共同参画クラブづくりの推進

女性リーダーの育成を図るため、「県老連女性部会」及び「市町老連女性リーダー研修会」の開催や「女性リーダーセミナー（全老連）」に1名を派遣した。

また、女性会員の役員登用や各種研修会等への参加促進を呼びかけた。

7 会員章の普及、資料・教材活用の促進、広報活動の推進

老人クラブ会員の誇りと連帯のシンボルである会員章の普及を図るとともに、資料や教材活用のため購入斡旋を行った。

また、老人クラブ活動のさらなる展開や会員増強のためには、地域の方々に老人クラブの実態を十分認識してもらう必要があり、市町広報誌への掲載依頼や新聞・テレビ等のマスコミへの情報提供を呼びかけた。

そのほか、機関誌「光と風の輪」や県老連のホームページにおいて広報活動を展開した。

8 老人クラブ傷害・賠償責任保険の普及

県老連機関誌、各種大会・研修会資料等に広告を掲載するとともに、各種会議や研修会の際に加入を呼びかけた。

9 市町老連、九州各県・指定都市老連及び全老連等との連携

「市町老連事務局長会議」の開催をはじめ、市町老連の要である各事務局との連携に努めるとともに、九州各県・指定都市老連及び全老連等とは各種会議への参加・情報交換等により連携を図った。

10 関係団体との連携協力

県社会福祉協議会やすこやか長寿財団との連携協力を図るとともに、県の福祉や教育など各行政の協議会等に参画した。

また、10月に開催された第29回全国健康福祉祭ながさき大会（ねんりんピック長崎2016）において地域文化伝承館を3日間開催し、21全市町老連から展示・出演への参加やボランティア等への協力があり、約30,000人の方に来場いただいた。

本老連が実施した事業の概要は次のとおりである。（省略）